

「確かな学力」を育てる学習活動の研究

～「学級力」を高め、協働的な学びをつくりだす言語活動の工夫～

I 研究の内容

1 研究の目標

- ・学級活動の時間を中心に、「学級力」を高める工夫を行うことにより、子どもたちにとって居心地のよい、安心して学習に取り組める学級集団を築いていく。
- ・各教科、領域において、「協働的な学び」をつくりだす言語活動を工夫することにより、子どもたちに学びの実感や学ぶ喜びを持たせていく。

2 研究の具体的内容

(1) 「学級力」を高めるために

- ・学級力アンケートの項目の見直し：子どもたちの実態に合わせて見直す。
- ・見える化することを意識して全学級で取り組む：可視化の方法を模索する。
- ・学級力ミーティング：各学級の取り組みを交流し学び合う。

(2) 「協働的な学び」をつくりだすために

- ・言語活動の工夫：聞く・話す・書くなどの活動を授業の中のどこにどのように設定するかを教材研究・教材分析をする中で考える。
- ・学習課題の提示の工夫：考えたいと思う学習課題の設定と提示の工夫。
- ・小集団（グループ）学習の工夫：ペア学習・グループ学習を積極的に仕組む。

3 研究方法

(1) 理論研究や実践研究

講師：峡東教育事務所 竹川和彦 主幹・指導主事

「アクティブラーニングの理論と実践について」

(2) 授業研究（2回の研究成果実証授業を実施する）

第4学年 国語科「新聞をつくろう」 橋本 耀太 教諭

指導助言：山梨県教育委員会義務教育課 重田誠 主幹・指導主事

第2学年 算数科「新しい計算を考えよう」 清水 利子 教諭

指導助言：峡東教育事務所 三森 公仁 指導主事

(3) 一人一実践の公開授業

第1学年	国語科	「かん字のはなし」	中村 未来	教諭
	算数科	「ひきざん」	山下 陽子	教諭
	国語科	「ともだちにきいてみよう」	望月 清美	教諭
	算数科	「どんなけいさんになるのかな」	清水 誠治	教諭
第2学年	算数科	「100より大きい数を調べよう」	斎藤 史子	教諭
第3学年	体育科	「幅跳び」	川崎 剛	教諭
	体育科	「マット運動」	関口 哲也	教諭
第4学年	算数科	「ちがいに目をつけて」	佐野 理恵	教諭

第5学年	国語科	「筆者の主張を考えよう」	保坂 洋仁	教諭
	英語科	「やまなし観光大使になろう」	藤木真里佳	教諭
	理科	「物の溶け方」	飯島 恵	教諭
第6学年	算数科	「考える力をのぼそう」	堀井 勝彦	教諭
	学級力	「最高のクラスにしよう」	廣瀬 剛	教諭
けやき	生活単元	「けやき祭りをしよう」	中村 潤子	教諭
たんぼぼ	自立活動	「いっしょにあそぼう」	飯田 憲政	教諭
ことばの教室	「吃音児の自己肯定感を高めるための指導」		丹澤智恵利	教諭
	「発音に課題のある幼児・児童の指導」		早川 博江	教諭
			岡 京子	教諭
			渡邊 光章	教諭

(4) 特別支援教育および今日的教育課題関連の学習会

講師：山梨県立かえで支援学校 飯島多三恵先生 梅澤陽子先生
「特別支援教育研修」

講師：ALT・テラ先生 JTE・庄子光子先生)
「使ってみよう！クラスルーム・イングリッシュ」

II 成果と課題

1 成果

- ・昨年度、課題としてあった「学級力」の項目を、低・中・高で見直し、子どもたちの実態や本校の研究の方向性にあったものに変えて実施できたことにより、よりよい学級集団づくりをすすめることができた。
- ・学級の前向きな姿勢は学級だけにとどまらず、あいさつ運動や全校集会、学校行事など、全校での活動にも良い影響を与えていた。
- ・「学級力ミーティング」で各クラスの「学級力」の実践を交流し合うことにより、互いに学び合い、成果を共有することができた。
- ・低学年、高学年の2つのブロックに分かれて研究を行った結果、発達段階に応じた言語活動について検討を丁寧に行い、言語活動や協働的な学びについて、より深く、お互いに高め合う研究会をもつことができた。

2 課題

- ・「学級力」向上の取り組みは有効であるが、毎年継続して行っていることで、同じことの繰り返しになってしまい、どのように取り組んだらより効果が得られるのか、考えていく必要がある
- ・各クラスで言語活動を工夫した授業改善が図られたが、「確かな学力」を育てるためには、さらに工夫を重ねることや教科としてのねらいを見失わないこと、系統性をとらえること、本当のアクティブラーニングとは何かということ、言語活動のあり方など、さらなる課題も見えてきた。

II 成果物

1 研究授業指導案及び資料

2 授業実践指導案

(研究主任 佐野 理恵)